

令和3年度化学物質環境実態調査結果(概要)
(検出状況、経年分析結果)

(1) 令和3(2021)年度における検出状況

【水質・底質】

調査対象物質	水質 (pg/L)		底質 (pg/g-dry)	
	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値
ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	tr(30)~3,700 (47/47)	330	tr(5)~620 (60/60)	52
ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	230~23,000 (47/47)	1,100	nd~260 (58/60)	24

【生物・大気】

調査対象物質	生物 (pg/g-wet)						大気 (pg/m ³)	
	貝類		魚類		鳥類		温暖期	
	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値
ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	tr(2)~250 (3/3)	14	tr(2)~4,500 (18/18)	81	590~15,000 (2/2)	3,000	0.70~6.5 (35/35)	2.8
ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	nd~16 (2/3)	6	nd~40 (14/18)	tr(4)	46~410 (2/2)	140	2.6~42 (35/35)	8.3

(注1) 「平均値」は幾何平均値を意味する。nd(検出下限値未満)は検出下限値の1/2として算出した。
(注2) tr(X)は、Xの値が定量下限値未満、検出下限値以上であることを意味する。

(2) 2009 年度～2021 年度における経年分析結果

【水質】

調査対象物質	水質			
	河川域	湖沼域	河口域	海域
ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	↓	—	↓	—
ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	↓	↓	↓	—

【底質】

調査対象物質	底質			
	河川域	湖沼域	河口域	海域
ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	↓	—	↓	↓
ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	↓	—	↓	—

【生物・大気】

調査対象物質	生物(注3)		大気(注4)
	貝類	魚類	温暖期
ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	↓	—	↓
ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	↓	↓	↓

(注1) 経年分析は、単回帰分析等の統計学的手法を用いて実施した。手法の詳細は、化学物質環境実態調査 調査結果報告書を参照。

(注2) 表中で用いた記号はそれぞれ次の内容を意味する。

- ↓ : 経年的な濃度の減少傾向が統計的に有意と判定されたもの
- ↓ : 検出率が経年的に減少していることが統計的に有意と判定され、濃度の減少傾向が示唆されたもの
- : 経年的な濃度の減少傾向(又は増加傾向)が統計的に有意であるとは判定されないもの

(注3) 鳥類の 2013 年度以降における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012 年度までの結果と継続性がないため統計的な分析の対象外とした。

(注4) 大気のみ、2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。